

平成 30 年度

「運営に関する計画」  
(最終評価)

大阪市立矢田西中学校

平成 30 年 2 月

## — 学校教育目標 —

人間尊重の精神を基盤として、生徒一人一人を見つめる中で、  
教育内容の充実を図り、保護者・地域の信頼に応える教育を  
すすめる。

### (1) 今年度組織目標

すべての子どもたちが学力を身に付けながら健やかに成長し、自立した個人として自己を確立し、他者とともに次代の社会を担うようになることをめざす。  
そのために、社会が多様化し激しく変化する中で、「生き抜く力」を備え、未来を切り開く心豊かな子どもたちを育む。

### (2) 重点目標

- ① 教職員一人一人が授業力の向上に努め、生徒の学習に対する理解や興味関心の向上をめざす。
- ② ともに育つ地域・校種間連携をめざす。
- ③ 人権尊重の精神を基盤とする豊かな感性を育むとともに、道徳教育における深化・充実を図る。
- ④ キャリア教育を推進し、望ましい職業観を育み、生徒一人一人の進路希望の実現をめざす。
- ⑤ 人と人との「つながり」を大事にした、前向きで活動的な学校文化をめざす。
- ⑥ 礼儀を重んじ、基本的生活習慣を身に付け、社会規範意識の向上を図る。
- ⑦ 健康の保持・増進および体力の向上をめざす。

## 大阪市立矢田西中学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

ここ数年の学校の落ち着きとともに、学校や社会のルールを守るなど生徒の規範意識は高いが、安全安心な学校・楽しい学校生活には課題が残る。また、自尊感情が全国に比べて低く、継続して家庭・地域とも協力し、基本的な道徳心・規範意識の醸成に努める必要がある。

学力面では、全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等において、全体としては効果が表れつつあるが、まだ基礎・基本の定着が不十分な生徒の割合が多く、論理的思考能力においても弱い面がある。また、放課後学習など校内で環境を整えると、参加する生徒は多くみられるが、家庭における自主的な学習習慣が身についていない生徒が多く、生活習慣のあり方とともに、学習面での自立などの課題が残る状況である。

体力面においては、全国体力・運動能力等調査では全国平均を上回るものも多いが、学年や種目によっては下回るケースもあり、安定した運動習慣がさらに必要である。

## 中期目標

## 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- [全国学力・学習状況調査] ・・・ 平成32年度の生徒質問紙調査での肯定的回答
  - ・「将来の夢や目標を持っていますか」 …毎年70%以上にする。  
(施策 2 道徳心・社会性の育成)
- [各学校におけるいじめ・問題行動調査等]
  - ・平成29年度～32年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年95%以上にする。  
(施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- [各学校におけるアンケート] ・・平成32年度末生徒・保護者アンケートでの肯定的回答
  - ・生徒「学校のきまり・規則を守っていますか」 …94%以上にする。  
(施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
  - ・生徒「学校は落ち着いており、安心して学校生活を送れる」 …90%以上にする。  
(施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
  - ・生徒「楽しい学校生活を送っている」 …80%以上にする。  
(施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
  - ・生徒「すすんで挨拶をしている」 …80%以上にする。  
(施策 2 道徳心・社会性の育成)
  - ・生徒「自分にはよいところがある」 …70%以上にする。  
(施策 2 道徳心・社会性の育成)
  - ・生徒「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」 …90%以上にする。  
(施策 2 道徳心・社会性の育成)
  - ・生徒「命や人権の尊さについての各設問 …90%以上にする。  
(施策 2 道徳心・社会性の育成)
  - ・生徒「読書が好き」 …平成28年度より10%増加させる。  
(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)
  - ・保護者「学校は情報公開(学年・学級通信・ホームページなど)をよく行っている」 …75%以上にする。  
(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

## 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

### ○ [全国学力・学習状況調査]

- 平成 32 年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題・活用に関する問題の平均正答率で、大阪府平均を上回る。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

### ○ [大阪府中学校チャレンジテスト]

- 平成 32 年度の大坂府の中学校チャレンジテストにおける各教科の平均正答率で、大阪府平均を上回る。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

### ○ [大阪市英語力調査]

- 平成 32 年度の大坂市英語力調査における各学年の平均スコアで大阪市平均を上回る。

(施策 6 国際社会において生き抜く力の育成)

- 平成 32 年度の大坂市英語力調査における、中学校卒業段階での英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合を平成 28 年度より 10%以上上回る。

(施策 6 国際社会において生き抜く力の育成)

### ○ [全国体力・運動能力、運動習慣等調査]

- 平成 32 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における調査結果で、男女とも全国平均を上回る。

(施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成)

### ○ [各学校におけるアンケート] …… 平成 32 年度末生徒アンケートでの肯定的回答

- 「授業がわかりやすい」 …… 平成 28 年度より向上させる。 「

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- 「家で学校の授業の復習（予習）をしていますか」 …… 平成 28 年度より向上させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- 「朝食を毎日食べていますか」 …… 85%以上にする。

(施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成)

- 「運動することが好き」 …… 80%以上にする。

(施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成)

## 【その他】

### ○ [小中一貫教育の充実]

- 小中兼務を計画・実施するとともに、毎年小中教員の全体会・合同研修会を 1 回以上開催し、教職員の相互授業見学や生徒間交流などを複数回実施する。

(施策 8 施策を実現するための仕組みの推進)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ① 平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ② 平成30年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を90%以上にする。
- ③ 平成30年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。
- ④ 平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。

#### 学校園の年度目標

- ⑤ 今年度の全国学力・学習状況調査での「将来の夢や目標を持っていますか」の設問で肯定的回答を70%以上にする。
- ⑥ 校内生徒アンケートでの「学校は落ち着いており、安心して学校生活を送れる」の設問で肯定的回答を90%以上にする。
- ⑦ 校内生徒アンケートでの「楽しい学校生活を送っている」の設問で肯定的回答を80%以上にする。
- ⑧ 校内生徒アンケートでの「すすんで挨拶をしている」の設問で肯定的回答を80%以上にする。
- ⑨ 校内生徒アンケートでの「自分にはよいところがある」の設問で肯定的回答を70%以上にする。
- ⑩ 校内生徒アンケートでの「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の設問で肯定的回答を90%以上にする。
- ⑪ 校内生徒アンケートでの命や人権の尊さについての設問で肯定的回答を90%以上にする。
- ⑫ 校内生徒アンケートでの「読書が好き」の設問で肯定的回答割合が前年度より上回る。
- ⑬ 校内保護者アンケートでの「学校は情報公開（学年・学級通信・ホームページなど）をよく行っている」の設問で肯定的回答を75%以上にする。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ① 中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ② 中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- ③ 中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- ④ 校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ⑤ 平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である（立ち幅とび）の平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。

### 学校園の年度目標

- ⑥ 全国学力・学習状況調査における知識に関する問題・活用に関する問題の平均正答率で、大阪府平均を上回る。
- ⑦ 大阪府の中学校チャレンジテストにおける各教科の平均正答率で、大阪府平均を上回る。
- ⑧ 大阪市英語力調査における各学年の平均スコアで大阪市平均を上回る。
- ⑨ 大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検3級以上の英語力を有する生徒の割合を前年度より上回る。
- ⑩ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における調査結果で、男女とも全国平均を上回る。
- ⑪ 校内生徒アンケートでの「授業がわかりやすい」の設問で肯定的回答を80%以上にする。
- ⑫ 校内生徒アンケートでの「家で学校の授業の復習（予習）をしていますか」の設問で前年度より向上させる。
- ⑬ 校内生徒アンケートでの「朝食を毎日食べていますか」の設問で肯定的回答を85%以上にする。
- ⑭ 校内生徒アンケートでの「運動することが好き」の設問で肯定的回答を80%以上にする。

### 【その他】

小中兼務を計画・実施するとともに、毎年小中教員の全体会・合同研修会を1回以上開催し、教職員の相互授業見学や生徒間交流などを複数回実施する。

## 3 本年度自己評価結果の総括

### 【全体として】

年度目標達成に向けて組織として取り組むことができ、概ね後退することなく成果をあげることができた。

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

目標数値に達しなかった項目もあるが、全体的に取り組みの成果としては上がっている。母数の生徒数が少なく一人の割合が大きいので、目標である割合が高いと達成が難しい面もあるが、100%達成に向けて引き続き安心・安全な学校づくり、豊かな心の醸成を追及していく。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

「大阪府平均を超えること」を中期目標として取り組み、年々、着実に成果をあげてきている。今年度3年生は各学力調査で、一部の科目以外は大阪府平均を超えることはできなかつたが、チャレンジテストの標準化得点でみると、1年から2年、2年から3年と確実に学年を重ねるごとに上昇しており、中学校3年間積み重ねた成果が表れている。2年生は欠席者が多かったこともあり、わずかに昨年度を下回った。英語力調査では1年生で初めて市平均スコアを越えた。また体力・運動能力については男女とも全国平均を大きく上回り、課題だった立ち幅跳びも大きく記録を伸ばした。しかし家庭学習の習慣については依然として課題であり、不登校の課題と同様に、家庭への働きかけを取り組む必要がある。

### 【その他】

小中連携の取り組みは着実に浸透し、小中共通の課題を明らかにしながら取り組んでいる。小中兼務が終了することから、新たに小中の情報交換を密にする工夫が求められる。

## (様式 2)

## 大阪市立矢田西中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった		B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
年度目標	達成状況	
<b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b>		
<b>全市共通目標（小・中学校）</b>		
① 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。 ② 平成 30 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を 90% 以上にする。 ③ 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。 ④ 平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。	B	
<b>学校の年度目標</b>		
⑤ 今年度の全国学力・学習状況調査での「将来の夢や目標を持っていますか」の設問で肯定的回答を 70% 以上にする。 ⑥ 校内生徒アンケートでの「学校は落ち着いており、安心して学校生活を送れる」の設問で肯定的回答を 90% 以上にする。 ⑦ 校内生徒アンケートでの「楽しい学校生活を送っている」の設問で肯定的回答を 80% 以上にする。 ⑧ 校内生徒アンケートでの「すすんで挨拶をしている」の設問で肯定的回答を 80% 以上にする。 ⑨ 校内生徒アンケートでの「自分にはよいところがある」の設問で肯定的回答を 70% 以上にする。 ⑩ 校内生徒アンケートでの「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の設問で肯定的回答を 90% 以上にする。 ⑪ 校内生徒アンケートでの命や人権の尊さについての設問で肯定的回答を 90% 以上にする。 ⑫ 校内生徒アンケートでの「読書が好き」の設問で肯定的回答割合が前年度より上回る。 ⑬ 校内保護者アンケートでの「学校は情報公開（学年・学級通信・ホームページなど）をよく行っている」の設問で肯定的回答を 75% 以上にする。		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	
<b>取組内容①【施策 1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> 地域・消防署・区役所と連携した防災訓練を実施し、防災意識を高める。		
<b>指標</b> 学校アンケートの「学校では災害のときにどうすればよいかを学ぶ機会がある」の設問で肯定的回答を 90 % 以上にする。	A	

<p><b>取組内容②【施策 1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> 問題行動の未然防止に向けて警察等の関係機関と連携した取り組みを行う。</p> <p><b>指標</b> 各学年で防犯教育・携帯安全教室などをそれぞれ年 1 回実施する。</p>	B
<p><b>取組内容③【施策 1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> 生活指導上の問題の解消に向けて、地域の青少年指導員や保護司と連携する。</p> <p><b>指標</b> 青少年指導員との合同巡視を毎月 1 回、保護司会を学期に 1 回開催する。</p>	B
<p><b>取組内容④【施策 1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> いじめの早期把握と迅速な解消に向けて取り組む。</p> <p><b>指標</b> 毎学期 1 回、いじめアンケートを実施し、認知したいじめ事案に対して、年度末までに「解消している」を 9 5 %以上にする。</p>	C
<p><b>取組内容⑤【施策 1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> 教職員の共通理解を図り、組織的に生徒指導をおこない、生徒の規範意識を高める。</p> <p><b>指標</b> 学校アンケートにおいて、「学校のきまり、規則を守っている」「社会のルールを守っている」の設問で、肯定的回答 9 0 %以上を維持する。</p>	B
<p><b>取組内容⑥【施策 2、道徳心・社会性の育成】</b> 互いの違いを認め合い、人権尊重の精神と態度を育てる教育を推進する。</p> <p><b>指標</b> 学校評価アンケートの「学校では、人権の大切さや、外国人・障がいのある人・高齢者などいろいろな立場の人に対する理解について学ぶ機会がある」の設問で肯定的回答を 8 5 %以上にする。</p>	B
<p><b>取組内容⑦【施策 2、道徳心・社会性の育成】</b> 道徳の読み物資料を活用し、計画的・組織的に行う。</p> <p><b>指標</b> 各学年の教員全員で道徳の授業に取組み、「2 2 の内容項目」を行い、言語活動を充実させる。</p>	B
<p><b>取組内容⑧【施策 2、道徳心・社会性の育成】</b> 校内の共通理解を図り、障がいのある生徒と共に生き、共に学び、共に成長することのできる集団を組織的に育てる。</p>	B

<b>指標</b> 障がいのある生徒についての校内委員会を毎月1回開き、情報交換を行う。 インクルーシブ教育についての研修を年1回以上行う。	
<b>取組内容⑨【施策2、道徳心・社会性の育成】</b> 心を揺さぶられる芸術や芸能に触れたり、体験することで、豊かな人間性を育成する。	B
<b>指標</b> 年に1回芸術鑑賞行事を実施する。	
<b>取組内容⑩【施策2、道徳心・社会性の育成】</b> 人と人との「つながり」を大事にした学校行事を充実させ、前向きで活動的な学校文化をめざす。	B
<b>指標</b> 学校アンケートの「学校行事は充実している」の設問で肯定的回答を90%以上、「学校は楽しい」の設問で肯定的回答を80%以上にする。	
<b>取組内容⑪【施策2 道徳心・社会性の育成】</b> 職業調べ・職業講話等を学年に応じて実施し、生徒一人一人が将来の生き方を考える力を養う。	B
<b>指標</b> 学校アンケートの「学校では、将来の進路や生き方について、考える機会がある」の設問で肯定的回答を90%以上にする。	
<b>取組内容⑫【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</b> 言語力向上、表現力育成のために、読書活動の推進に取り組み、学校図書館を活性化する。	B
<b>指標</b> 貸出冊数が昨年度を上回る。図書館を整備し、蔵書冊数800冊以上にする。	
<b>取組内容⑬【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</b> 大阪の歴史・文化について学び、郷土を愛する心を育む。	B
<b>指標</b> 大阪の史跡や博物館等で学習する機会を年1回設ける。	

### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

#### ○年度目標について

- 以下の目標については数値目標を達成できなかったが、全体としては概ね向上している。
- ③不登校生徒について原因や背景は様々だが、一人ひとり保護者や関係機関と連携して取り組んできている。初期段階で原因を検証し、本人や保護者への働きかけ、支援を強化していく必要がある。
  - ④生徒数が少ないため、認知したいじめについて100%解消しないと目標は達成できない。引き続き100%解消に向けて取り組む。
  - ⑥すべての学年で90%を越えなかつた。様々な経験のなかで学校生活に肯定感と安心感を持たせていく必要がある。

- ⑩ 1年生の肯定的回答が他学年と比べて低い。職場訪問を3学期に実施するので、2学期までにも進路を考えさせる時間を作る必要があった。
- ⑪ 2・3年生は昨年度を上回っていた。1年生の読書習慣を高めたい。

## ○各取組内容について

- 取組内容①：アンケートの結果は95.8%に達した。区役所・消防署・地域と連携した防災訓練は台風の影響で中止となったが、地震・津波避難訓練を別に実施した。
- 取組内容②：1学期に全生徒対象にLINE会社に来てもらい携帯安全教室を実施した。防犯教育に関しては今回時間が合わず実施できなかった。
- 取組内容③：巡視を毎月実施している。また1・2学期ともに保護司会を行った。区役所・子ども相談センターとのケース会議を実施した。
- 取組内容④：毎学期にいじめアンケートを実施し、教育相談で担任に指導してもらい早期把握・解消については取り組んだ。「解消している」の目標値95%に達しなかった。
- 取組内容⑤：制服・頭髪規定をつくり共通理解を図った。また、教室掲示のプリントも作成し生徒への共通理解を図った。さらに毎朝多くの先生が正門に立ち指導にあたっている。アンケートの結果は、91.7%で目標を十分上回った。
- 取組内容⑥：学校評価アンケートの「人権の大切さや、外国人・障がいのある人・高齢者などいろいろな立場の人に対する理解について学ぶ機会がある」の設問で肯定的回答が95.8%であった。
- 取組内容⑦：道徳の22の内容項目を読み物教材で授業することを目標に掲げたが、学年によって、行事の取組に置き換わったりし、完全に実施することは難しかった。校内研修会を行い、来年度からの教科化について教員間で意思統一できた。
- 取組内容⑧：毎月特別支援教育推進委員会を開催し、情報交換を行い、職員会議で伝達・報告をした。7月にはSCの山本先生を講師に招いて、特別支援教育研修会を行った。
- 取組内容⑨：音楽に関する芸術鑑賞を実施した。
- 取組内容⑩：学校評価アンケートの「学校行事は充実している」の設問で肯定的割合が90.8%「学校は楽しい」の設問で肯定的割合が82.5%であった。
- 取組内容⑪：学校アンケートの「学校では、将来の進路や生き方について、考える機会がある」の設問で肯定的回答は88.3%で、目標に達しなかった。1年生の肯定的回答が他学年と比較して低いが、3学期の職場訪問学習の成果を考慮すれば目標に達していた可能性はある。
- 取組内容⑫：蔵書冊数は8000冊数を超え、一定の生徒が利用している。学校図書館補助員コーディネーターによる蔵書の充実を図った。
- 取組内容⑬：校外学習に大阪市の施設等を利用し、例年通りの取り組みで市内探索や職場訪問等を実施できた。

## 次年度への改善点

- 取組内容①：防災訓練の実施時期を見直す。
- 取組内容②：警察等の関係機関との連携した取り組みを行う。
- 取組内容③：地域の青少年指導員との青指巡視の見直しをはかり、より良い巡視のあり方を考える。保護司との連携を深め、地域の生活指導の情報も入手していく。

- 取組内容④：迅速な対応をしていくため、小学校からの根深い人間関係から把握し、解消に向けて取り組んでいく。
- 取組内容⑤：生徒会が中心となり、学校・社会のルールを守り秩序ある学校・社会づくりに貢献できる集団の育成に努める。
- 取組内容⑥：生徒の自尊感情を高める人権教育を多岐にわたって進めていく。
- 取組内容⑦：道徳の来年度からの教科化で、35時間の授業数を確保できるようにする。
- 取組内容⑧：特別支援教育推進委員会を継続して開催し、情報交換を行う。来年度も特別支援教育研修会を行い、全教職員で特別支援教育の知識を深める。
- 取組内容⑨：次年度も引き続き、人ととの「つながり」を大事にした学校行事を充実させ、前向きで活動的な学校文化をめざしていく。
- 取組内容⑩：人権尊重の精神、豊かな感性を育む学校行事を進めていく。
- 取組内容⑪：1年生の2学期までに進路に関する学習の機会をつくる必要がある。
- 取組内容⑫：蔵書構成の取り組みを継続して行い、蔵書の冊数と内容の充実を進める。
- 取組内容⑬：職場訪問や校外学習の取り組みで大阪市内の施設等を活用することを今後も続けていき、郷土愛を育むことに努めていきたい。

## (様式 2)

## 大阪市立矢田西中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b>	
<b>全市共通目標（小・中学校）</b>	
<p>① 中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>② 中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。</p> <p>③ 中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。</p> <p>④ 校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>⑤ 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である（立ち幅とび）の平均の記録を、前年度より 1 ポイント向上させる。</p>	B
<b>学校の年度目標</b>	
<p>⑥ 全国学力・学習状況調査における知識に関する問題・活用に関する問題の平均正答率で、大阪府平均を上回る。</p> <p>⑦ 大阪府の中学校チャレンジテストにおける各教科の平均正答率で、大阪府平均を上回る。</p> <p>⑧ 大阪市英語力調査における各学年の平均スコアで大阪市平均を上回る。</p> <p>⑨ 大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合を前年度より上回る。</p> <p>⑩ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における調査結果で、男女とも全国平均を上回る。</p> <p>⑪ 校内生徒アンケートでの「授業がわかりやすい」の設問で肯定的回答を 80% 以上にする。</p> <p>⑫ 校内生徒アンケートでの「家で学校の授業の復習（予習）をしていますか」の設問で前年度より向上させる。</p> <p>⑬ 校内生徒アンケートでの「朝食を毎日食べていますか」の設問で肯定的回答を 85% 以上にする。</p> <p>⑭ 校内生徒アンケートでの「運動することが好き」の設問で肯定的回答を 80% 以上にする。</p>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①－1 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b> 〔国語科〕 言語力向上の取り組みを行う。	B

<p><b>指標</b> 生徒が自分の考えを表現し、文章化する力を身につける。 すべての学年で作文指導を実施する。</p>	
<p><b>取組内容①－2【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b> 〔社会科〕基礎・基本の学力を向上させるため、重要語句の小テストを行い、その定着を図る。</p>	B
<p><b>指標</b> 単元ごとに小テストを行い、その平均正答率を70%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容①－3【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b> 〔数学科〕基礎・基本の習得につとめ、「問題が解ける」感覚を身につけさせる。また教え合いができる環境や主体的に考えさせる発問の工夫をする。</p>	B
<p><b>指標</b> 大阪府中学校チャレンジテストにおける平均正答率で、全学年で大阪市平均に並ぶ。</p>	
<p><b>取組内容①－4【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b> 〔理科〕科学的に探究する能力の基礎と態度を育成するために、生徒の興味、関心、意欲を高める観察や実験を単元ごとに必ず行う。</p>	B
<p><b>指標</b> 授業アンケートにおいて、「授業を受けてその内容に興味や関心や意欲を持つようになっていますか」の設問で肯定的な回答を80%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容①－5【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b> 〔音楽科〕音楽活動の基礎的な演奏能力の伸長を図る。</p>	
<p><b>指標</b> アルトリコーダーで1オクターブの音階を演奏できる生徒を85%以上にする。</p>	B
<p><b>取組内容①－6【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b> 〔美術科〕美術の基礎的能力の伸長を図り、美術を愛好する気持ちを育む。</p>	
<p><b>指標</b> 美術科でアンケートを行い、「授業がよくわかる」「美術が好き」の設問について、肯定的回答を70%以上にする。</p>	B
<p><b>取組内容①－7【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b> 〔技術家庭科〕授業の中で適宜、実習や制作を行い、基礎的な知識や技術の習得を図る。</p>	
<p><b>指標</b> 実技授業後のアンケート調査で、理解度・習得度の肯定的回答を70%以上にする。</p>	B
<p><b>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b> 放課後学習や長期休業期間の補充・チャレンジ学習を実施し、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上に努める。</p>	B

<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府の中学校チャレンジテストにおける各教科の平均正答率で、前年度を上回る。</li> <li>・大阪市英語力調査における各学年の平均スコアで前年度を上回る。</li> </ul>	
<p><b>取組内容③【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</b></p> <p>〔英語科〕各学年ともに週2回以上ICTを活用した授業を展開し、帶活動としてListeningテストを週2回以上実施する。2・3年生においては長文問題を意識した「読みトレ」を2年生50日分、3年生100日分取り組む。</p>	B
<p><b>指標</b></p> <p>大阪市英語力調査（英検IBA）における中学校卒業段階における英検3級以上の英語力を有する生徒の割合を30%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容④【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</b></p> <p>外国にルーツのある生徒が文化などの互いの違いを認め合い尊重しあう関係性をめざして、多文化共生の教育を進める。</p>	B
<p><b>指標</b></p> <p>韓国・朝鮮をはじめとする外国の文化や歴史に触れる取り組みを各学年1回以上実施する。</p>	
<p><b>取組内容⑤【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</b></p> <p>ICTを活用した教育を推進する。</p>	B
<p><b>指標</b></p> <p>ICTを活用した教育に関する校内研修を年1回以上行い、ICTを活用した授業の回数を各教科で年間3回以上実施する。</p>	
<p><b>取組内容⑥【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b></p> <p>健康や安全に関する基本的な生活習慣が身につくような指導を計画的にすすめる。</p>	A
<p><b>指標</b></p> <p>保健だより等を活用して積極的な情報発信に努め、学校アンケートで「私は健康的な生活を送るよう心がけている」の設問で肯定的な回答を80%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容⑦【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b></p> <p>食に関する興味・関心を高めるような指導を計画的にすすめる。</p>	A
<p><b>指標</b></p> <p>学年別に食に関する指導を実施し、学校アンケートで「学校では「食」について学ぶ機会がある」の設問で肯定的回答を80%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容⑧【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b></p> <p>「喫煙・飲酒・薬物乱用の害に関する指導」や「性に関する指導」を計画的にすすめる。</p>	A
<p><b>指標</b></p> <p>学校アンケートで「学校では「喫煙・飲酒・薬物乱用の害」や「性」についてなど、命を大切にして生きることを学ぶ機会がある」の設問で肯定的回答を80%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容⑨【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b></p> <p>〔保健体育科〕集合整列・準備運動などの授業規律を確立するとともに、運動の楽しさだけでなく、体力や健康への関心を高め、体力の向上を図る取り組みを進める。</p>	A

## 指標

スポーツテストを年1回実施し、各個人の体力・運動能力を把握させる。

学校アンケートの「学校では、自分の体力や運動能力を知り、体力や運動能力を向上させる機会がある。」の設問で肯定的回答を90%以上にする。

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### ○年度目標について

- ・全国学力・学習状況調査、チャレンジテストにおいて、大阪府の平均を上回る科目は少なかったが、標準化得点では学年を重ねるごとに上がっている。3年生は下位層を減らすことはできなかつたが、上位層は増加した。2年生は欠席者が多く、標準化得点で昨年度を上回ることができなかつたが、上位層の割合は増えている。1年生は上位層が薄く、下位層が厚い。
- ・全国体力・運動能力調査において、男女とも全国を上回り、前年度より10ポイント以上伸びた。
- ・英語力調査では、1年生が市平均スコアを上回った。3年生の3級以上の英語力を有する割合も昨年度より増えた。
- ・「授業がわかりやすい」の肯定的回答は前年度を上回れなかつたが、80%以上に達している。
- ・家庭での学習習慣は昨年度を上回れず、依然課題として残った。

### ○各取組内容について

取組内容①-1：単元ごとに、自分の考えや感想文を書くことに重点を置いて取り組んだ。

話し言葉を書き言葉の違いを理解し、意識をして文を書くことができる生徒が増えていると感じられる。今後も文章を書くための指導を継続的に行っていく。

取組内容①-2：毎時間、小テストの実施を行った。正答率が高い小テストもあれば、低い時もある。定期テストの前に小テストの総問題を作成し、基礎・基本の学力の定着を図った。

取組内容①-3：3年生の平均正答率は52.2点に対して、大阪市は56.7点であった。目標は達成できなかつたが、その後の大阪市統一テストでは、平均正答率の差が2点となり、学力は上向き傾向になっている。領域別の正答率を分析すると、基礎的な計算問題や図形に関する設問の正答率は高いが、関数の設問が低い。

取組内容①-4：実験や観察を通して、興味・関心を高めるとともに、基礎・基本をより理解しやすくする授業に努めている。また、実験や観察を充実させるため、実験器具等の整備を進めている。授業アンケートにおいて、「授業を受けてその内容に興味や関心や意欲を持つようになっていますか」の設問で肯定的な回答が80%を超えていた。

取組内容①-5：アルトリコーダーの曲を笛のテストで完璧に吹ける生徒が90%を超えることができた。

取組内容①-6：基礎的な制作技法から、応用的な活用まで学年の段階に応じた指導ができた。授業アンケートを行い「授業がよくわかる」「美術が好き」の設問で肯定的な回答が90%以上で目標を上回った。

取組内容①-7：技術科では1年生で木工、2年生で栽培とはんだ、3年生で金工とプログラミングを、家庭科では1年生で裁縫、2年生で調理、3年生でおもちゃ作りと、それぞれの分野において実習や制作の授業を取り入れた。アンケ

<p>ートを行った結果では肯定的な回答が、1年生で80%、2年生で87%、3年生で97%と、指標の70%を上回った。</p> <p>取組内容②：各学年とも放課後学習を取り組み、夏のチャレンジ講座で個に応じた学習の取り組みの期間を設けたり、学力検査等に向けて各教科での主体的な取り組みが行えた。</p> <p>取組内容③：各学年共に、週2回以上ICTを利用した授業ができ、生徒にとっては、『わかりやすい授業』の一助となった。</p> <p>帯活動としてListening Testを各学年共に週に2回以上実施できた。Readingの練習の『読みトレ』は、2年生は年50日分、3年生は年100日分を本年度中に実施し、目標を達成できる見込みである。1年生は3学期より『読解ドリル』を20回分実施できる見込みである</p> <p>大阪市英語力調査(英検IBA)については、10月23日現在において、3年生では3級レベル以上は、48.5%(前年度44.4%)となり、目標を大きく上回った。2年生では、4級レベル以上は57.9%(前年度51.4%)、1年生では5級レベル以上は81.3%(前年度76.3%)で、1年生では大阪市の平均をわずかではあるが上回った。</p> <p>一方、3年生のチャレンジテスト、大阪市統一テストでは、いずれも大阪市の平均を下回り、課題も見えてきた。</p> <p>取組内容④：国際理解教育が年間計画に基づいて行われ、外国の文化や歴史に触れる取り組みを2・3年生においては、年1回以上実施できた。3月に、1年生の取り組みを予定している。</p> <p>取組内容⑤：ICTを活用した教育に関する校内研修を実施した。各教科において、プロジェクターや大画面テレビ、タブレット等を用いた授業を展開している。ICTを活用した授業では、まだ1度も実施していない教科も少しあるので、3学期中の実施に向けて進めていく。</p> <p>取組内容⑥：保健だよりの定期・号外発行し情報発信を行った。学校アンケートで「健康的な生活を送るよう心がけている」の設問で、肯定的な回答が84%で目標を上回った。睡眠についてのアンケートを行い、小中連携でニュース等を発行した。また施設点検を行った。</p> <p>取組内容⑦：学年別で「食」に関する指導を実施した。学校アンケートで「食について学ぶ機会がある」の設問で、肯定的な回答が89%で目標を上回った。</p> <p>取組内容⑧：学校アンケートで「喫煙・飲酒・薬物乱用の害や、性についてなど命を大切にして生きることを学ぶ機会がある」の設問で、肯定的な回答が95%で目標を上回った。また多様な性についての指導を行った。</p> <p>取組内容⑨：1学期に全学年対象にスポーツテストを実施し、各個人の体力・運動能力を把握させる機会を持った。学校アンケート結果は92.5%で目標を上回った。</p>	<p><b>次年度への改善点</b></p>
<p>取組内容①-1：行事ごとに作文に取り組むようにしたり、授業の始めの時間を使って三行日記の取り組みを行い、書くことへの抵抗を減らしていきたい。</p> <p>取組内容①-2：小テストの取り組みを継続して行う。また、生徒の興味・関心を引き出すため、ICTを活用した授業を展開していく。</p> <p>取組内容①-3：基本基礎の習得、苦手単元の克服するために、プリントやワークを使い、家庭学習の習慣をつける。また、「できる」を「身につける」に変えるためには、普段の授業の中で「振り返り」の要素を取り入れていく。</p>	

取組内容①-4：実験や観察器具の点検・整備を計画的に継続していくとともに、さらに興味や関心を高める実験・観察方法を工夫していく、基礎・基本の定着につなげていく。また、新課程への移行を踏まえ、特に新項目における授業づくりを行っていく。

取組内容①-5：来年度は、ICTを用いての授業を増やしていきたい。

取組内容①-6：鑑賞教育を深化させる。制作が遅れがちな生徒に対する個別指導をさらに進める。

取組内容①-7：1年間の見通しをもって、計画的に実習や作業を行う。また、プログラミング分野をより工夫して取り入れていく。

取組内容②：放課後学習等の取り組みやチャレンジ講座の充実に努める。

取組内容③：英検IBAでは、各学年共に、前年度よりも上回ったが、英語に関する苦手意識があり、達成感を高める工夫が必要である。  
生徒の『英語の授業に望む』ことの内容には、・自分の意見を発表する。・ドラマ、映画、音楽を視聴する。・ICTの活用を多くしてほしい。などがあり、特にWriting(「書くこと」)に興味・関心を高める教材を準備し、取り組んでいく必要があると思われる。尚、3年チャレンジテスト、大阪市統一テストにおいても、Writingの課題が大きくなっていることがわかった。  
Listening, Readingも今までと同様に取り組んでいかなければならない。  
また、ICT機器を使った授業の充実をさらに図らなければならない。

取組内容④：外国にルーツのある生徒への理解を深めさせるためにも、多文化共生の教育をさらに充実させる。

取組内容⑤：入れ替えされたタブレットの使用方法を教職員に伝達していくとともに、各教科が各単元の授業において、ICT機器を使用しやすい環境を整備し、さらに多くの単元でICTを用いた授業を展開できるようにしていく。

取組内容⑥：定期健康診断結果による受信の声かけを行い、有所見の放置者を減らす。

取組内容⑦：学校アンケートの「朝食を食べている」の設問で、12%の生徒が「あまり食べていない・食べていない」と回答しているので「食育」をさらに進めていく。

取組内容⑧：段階的、継続的な指導を行い、さらなる意識向上を目指していく。

取組内容⑨：生徒に、全国平均や個人の記録を示すことによって、個々の体力・運動能力の現状を明らかにし、授業だけでなく、家庭でも行えるトレーニング方法を考えさせ、体力・運動能力の向上に努める機会を継続して設けていきたい。

## (様式 2)

## 大阪市立矢田西中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった		B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
年度目標	達成状況	
<b>【その他】</b> <b>学校の年度目標</b> 小中兼務を計画・実施するとともに、毎年小中教員の全体会・合同研修会を 1 回以上開催し、教職員の相互授業見学や生徒間交流などを複数回実施する。	B	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	
<b>取組内容①【施策 8 施作を実現するための仕組みの推進】</b> 小中一貫教育の充実を図るため、小中合同研修会や授業交流、6 年生の体験・交流学習の企画及び運営を行う <b>指標</b> 学年末の小学校 6 年生の中学校入学に関するアンケートの意識調査において、8 割以上の項目で肯定的な回答を 80% 以上にする。 小中両校の職員の合同研修や授業研究等を通し、お互いの認識の隔たりが少なくなったと考える職員が全体の 90% 以上になるようにする。	B	
<b>取組内容②【施策 8 施策を実現するための仕組みの推進】</b> 指導法の改善に向けて、研究授業に積極的に取り組む <b>指標</b> 研究授業を全教員 1 回以上実施する。	B	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組内容①：小中の課題を共有し、具体的な研修会を 2 回実施することができた。 取組内容②：全員の研究授業及び 2 回の授業研究会で指導の改善について討議できた。		
次年度への改善点		
取組内容①：指導法の交流や研究を小中合同で行えるようにしたい。 取組内容②：研究テーマを絞り、授業後の研究会の内容を充実させる。		

## 平成 30 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立矢田西中学校 学校協議会

## 1 総括についての評価

本年度の学校の評価は妥当である。学校評価アンケートの結果からみても、概ね高い評価を得ており、多くの目標を達成できていると考える。特に、生徒・保護者の 8 割以上が①安心して学校生活が送れる②学校が楽しい③ルールを守っている④思いやりの心を持っていると考えており、学校が安心で安全な学校になっているといえる。また、授業や様々な教育活動においても努力をしている成果が数字にあらわれている。体力調査では成果がでており、学力調査についても、不十分なところはありながらも、着実に向上がみられる。今後も保護者・地域と連携しながら、安心・安全な学校づくり、学力向上に尽力してほしい。

## 2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

## 年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

## 全市共通目標（小・中学校）

- ① 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- ② 平成 30 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を 90% 以上にする。
- ③ 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。
- ④ 平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。

## 学校の年度目標

- ⑤ 今年度の全国学力・学習状況調査での「将来の夢や目標を持っていますか」の設問で肯定的回答を 70% 以上にする。
- ⑥ 校内生徒アンケートでの「学校は落ち着いており、安心して学校生活を送れる」の設問で肯定的回答を 90% 以上にする。
- ⑦ 校内生徒アンケートでの「楽しい学校生活を送っている」の設問で肯定的回答を 80% 以上にする。
- ⑧ 校内生徒アンケートでの「すすんで挨拶をしている」の設問で肯定的回答を 80% 以上にする。
- ⑨ 校内生徒アンケートでの「自分にはよいところがある」の設問で肯定的回答を 70% 以上にする。
- ⑩ 校内生徒アンケートでの「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の設問で肯定的回答を 90% 以上にする。
- ⑪ 校内生徒アンケートでの命や人権の尊さについての設問で肯定的回答を 90% 以上にする。
- ⑫ 校内生徒アンケートでの「読書が好き」の設問で肯定的回答割合が前年度より上回る。
- ⑬ 校内保護者アンケートでの「学校は情報公開（学年・学級通信・ホームページなど）をよく行っている」の設問で肯定的回答を 75% 以上にする。

○達成状況の評価については妥当である。学校評価アンケートの結果を活用するなど、数値によって達成状況を示している。各取組のなかで生活指導上の課題、道徳性や自他を尊重する人間性、防災意識などの向上に努力したことがうかがえる。引き続き、安心で安全な学校づくりに努力してほしい。不登校の課題などについては家庭・地域・関係機関との連携を強化して取り組んでもらいたい。

## 年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

### 全市共通目標(小・中学校)

- ①中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ②中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- ③中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- ④校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ⑤平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である（立ち幅とび）の平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。

### 学校の年度目標

- ⑥平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である（立ち幅とび）の平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。
- ⑦今年度の全国学力・学習状況調査での「将来の夢や目標を持っていますか」の設問で肯定的回答を70%以上にする。
- ⑧校内生徒アンケートでの「学校は落ち着いており、安心して学校生活を送れる」の設問で肯定的回答を90%以上にする
- ⑨校内生徒アンケートでの「楽しい学校生活を送っている」の設問で肯定的回答を80%以上にする
- ⑩校内生徒アンケートでの「すすんで挨拶をしている」の設問で肯定的回答を80%以上にする。
- ⑪校内生徒アンケートでの「自分にはよいところがある」の設問で肯定的回答を70%以上にする。
- ⑫校内生徒アンケートでの「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の設問で肯定的回答を90%以上にする。
- ⑬校内生徒アンケートでの命や人権の尊さについての設問で肯定的回答を90%以上にする。
- ⑭校内生徒アンケートでの「読書が好き」の設問で肯定的回答割合が前年度より上回る。
- ⑮校内保護者アンケートでの「学校は情報公開（学年・学級通信・ホームページなど）をよく行っている」の設問で肯定的回答を75%以上にする。

○達成状況の評価については妥当である。アンケートや学力検査などの結果等を活用して、数値によって達成状況を示している。各教科が生徒の学力向上につとめた結果、一定の成果がみられる。また様々な取り組みによって、健康面や体力の向上につとめていることがわかる。今後も継続して学力・体力の向上に取り組み、学力の目標達成に向けて成果があがるようにつとめてもらいたい。1年生についても、2・3年同様に着実に向上することを期待している。

## 年度目標：【その他】

### 学校の年度目標

小中兼務を計画・実施するとともに、毎年小中教員の全体会・合同研修会を1回以上開催し、教職員の相互授業見学や生徒間交流などを複数回実施する

○達成状況の評価については妥当である。小中連携、生徒や教職員の交流の取り組みを継続・発展させている。1小1中の利点を活かして、小中一貫教育に向けたさらなる連携につとめてほしい。また、教員の授業改善をさらに進めて、子どもたちがわかりやすい授業を追求してほしい。

### 3 今後の学校園の運営についての意見

部活動の維持と活性化、道徳教育の推進、さらなる学力・体力の向上に向けて、教職員一丸となって取り組んでもらいたい。また、不登校、家庭学習習慣の確立など、家庭の協力なしでは解決できない課題についても、地域・保護者・小学校・関係機関等とも十分連携をとりながら課題解決に向けて取り組んでもらいたい。